

学校応援プロジェクトを通じた地域貢献

【取組概要】

教職課程教育を取り巻く環境として、「学校体験を通じた適性把握や能力の向上」や、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」や「ICTの活用」を意識した教授方法が求められるようになったことを受けて、本学教職課程では、2019年度より、以下の2つの取組を行うこととしました。

①学校応援プロジェクト

学校現場のニーズに応える授業プログラムを学生のグループが作成し、現場に出張して授業等を実施する「学校応援プロジェクト」を展開します。ニーズを調査したコーディネーターと全学部の教員のうちニーズに合う研究テーマを持つ本学教員が協力し、学生に対して授業プログラム作りと教授法の指導を行います。プロジェクトに参加する学生は教職課程履修者に限定せず、広く全学から募集し、全学的に学部での学びと地域貢献をつなぐ一つのルートとして機能させたいと考えています。

②模擬授業教室による授業改善

実際の学校と同じ環境である模擬授業教室と、そこで使用する電子黒板、電子教科書や電子教材などを整備します。これらの設備を教職課程の教育方法・指導法に関わる科目や「学校応援プロジェクト」の準備で利用し、学生が実際にこれらの設備を利用した授業を作る能力を高めたいと考えています。

以上の取組により、教職課程の授業改善によって高めた学生の授業を作る能力を、学校応援プロジェクトという形で児童・生徒に教えることでその学びをさらに深め、それを地域貢献につなげつつ、学生には質の高い学校体験を行わせることが可能となります。

【取組実績】

本取組は、将来、教職をめざす学生達の「構想する」「教える・伝える」力を高めることを主たる目的としてスタートしました。しかしながら、本プロジェクトは3年間の活動期間の中で大きな進化を遂げ、教職課程を履修していない学生への波及や中央大学附属の中学校・高等学校との連携といった、構想段階では想定していなかった面でも大きな成果をあげることができました。

地域の学校等への出張授業の企画・実施を行う「学校応援プロジェクト」については、3年間で31校・47回の授業・アクティビティ等を実施し、460名の学生が参加しました（数値はいずれものべ数）。授業の内容は、英語を用いたアクティビティを中心に実施する「グローバル教育」、プログラミング言語を用いた活動や小学校における学習端末導入の授業を行う「プログラミング教育」、将来の進路選択やキャリア形成に資する「キャリア教育」、いじめのない学校・クラスづくりを考える「いじめ防止教育」の4つが主な柱となっています。



出張授業の企画・立案は、プロジェクトに参加する学生メンバーが中心となり、学校現場の経験を有するコーディネーター（現在は文学部特任教員）の指導・支援をうけながら行います。事前に実施校を訪問し、対象となる生徒の学年や特徴、授業を行う環境、学校側の願いや要望等を確認するとともに、必要であれば生徒に対して事前アンケートを実施するなど、実施校それぞれにあわせたオリジナルの企画を作成することで、実施後の満足度は毎回 90%以上と極めて高い評価を得ているほか、複数年度にわたって依頼がある学校が多いのが特徴です。

プロジェクトに参加するメンバーは教職課程の授業やガイダンスを通じて募集するほか、プロジェクトによっては全学部の学生を対象に掲示物や LMS で募集を行うこともあります。そのため、教職課程を履修していない学生や、教職課程を設置していない学部の学生も一定数参加しています。小学校におけるプログラミング授業においては、教職課程を開設していない国際情報学部の学生が専門性を活かして授業コンテンツを作成し、教職課程を履修している他学部の学生と協力しながら指導の流れを組み立て、出張授業に参加するメンバーの研修を行うという、両者の強みを活かしたコラボレーションの事例もみられました。通常の学校生活では接することが少ない異なる学部・学科・学年の学生が集まり、ひとつのプロジェクトを作り上げ実施していくことにより、学生達はコミュニケーション能力や協働する力といった、教員のみならず社会人全般に求められる能力を向上させています。

このほか、出張授業の実施を契機に、中央大学附属中学校・高等学校においては、正課の授業に学生がチューターとして参加する取組もスタートしています。2022年度からは「中央大学と附属学校との教育連携プラン」の一部の企画を学校応援プロジェクトが担当するなど、本学の中・高・大連携推進にも大きな役割を果たしています。



これらの活動を支える学習環境として、2019年度に多摩キャンパス3号館内の2教室を模擬授業教室として整備し、運用を開始しました。模擬授業教室には電子黒板を配備するとともに、実際の学校で使用されているのと同じ仕様の机・椅子、教室後方の黒板等を配備し、より現場に近い環境で模擬授業等を行うことが可能となりました。さらに、2020年度には1教室に学習者用のタブレット端末を配備したほか、中学校を中心に各教科のデジタル教材を購入・配備しています。これらの施設・設備は、教科教育法や教職実践演習をはじめとする教職課程の授業、教育実習に参加する学生の事前指導で活用しているほか、学校応援プロジェクトで行う出張授業の企画準備・リハーサル、教員採用試験を受験する学生の支援においても積極的に活用しています。



教育力向上推進事業の事業期間は2022年3月末をもって終了しましたが、学校応援プロジェクトは今後も本学教職課程の特色ある取組として活動を続けていきます。